

ひょうご花緑創造プラン（案）

花緑の『育み』、『恵み』による『ゆたかな暮らし』の実現

※いただいたご意見による修正箇所は赤下線で示しています。

平成 28 年 6 月

兵 庫 県

目 次

序章	はじめに	1
1	プラン改定の趣旨	1
2	計画年度	2
3	目的・位置付け	2
4	計画の評価・見直し	2
第1章	花と緑の現状と課題	3
1-1	これまでの花緑に関する取り組み	3
1-2	花と緑の現状と課題	7
第2章	理念	13
第3章	目標	15
3-1	基本目標	15
3-2	地域目標	16
第4章	基本方針	19
第5章	推進施策	21
5-1	目標達成へ向けた施策の推進の基礎となる5つの行動	21
5-2	施策展開の視点	21
5-3	推進施策の展開	22
第6章	維持管理の推進	35
第7章	計画の推進体制	37

序章 はじめに

1 プラン改定の趣旨

兵庫県では、緑豊かな県土づくりを総合的に推進するため「1億本植樹植林大作戦」(昭和58～61年度)、「緑の総量確保推進計画」(平成3～12年度)や「さわやかみどり創造プラン」(平成13年度～)などの策定・推進を通じて、我々の生活にとって大切な役割を持つ緑の保全・創出を推進してきました。

この間、経済重視の成長社会から、ゆとりや潤いが重視される成熟社会へと社会が大きく変化し、自然環境や景観、文化を支え、生活を豊かにしてくれる緑の効用が期待される場面は、ますます拡大してきました。

こうしたなか、平成18年には、県民共通の財産である緑の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、県民緑税が創設され、その秋に開催されたのじぎく兵庫国体・のじぎく兵庫大会を契機とした全県花いっぱい運動の盛り上がりは、花づくりにとどまらず花と緑の地域づくりへと広がっていきました。

この流れを受け、「さわやかみどり創造プラン」を改定することとし、平成19年に現プランである「ひょうご花緑創造プラン」(平成19～27年度)を策定し、「参画と協働でつくる花と緑あふれる多様な県土」を基本理念に、これまでの緑に花を加えて、県民・団体・事業者・行政との参画と協働により進めてきている取り組みは、大きな意義があったといえます。

また、都市公園などの緑地の整備、保全といったこれまでの取り組みにより、緑とオープンスペースの創出などが進み、住環境、防災力などの向上が図られてきました。

しかし、ここ数年、今後の少子化・高齢化や人口減少の進展に伴う各地域の衰退が深刻なものとして懸念されるようになり、地域の活性化・まちの活性化などの地域創生の取り組みが求められるようになっていきます。

そうした中で、これまで培った花と緑への意識や取り組みを継続させていくことや、花と緑の活用によるゆたかな暮らしの向上をともに考えていく必要があります。

こうした観点から、これまでの参画と協働の理念を継承するとともに、さらに緑の量と質を高める花と緑のまちづくりを進め、ゆたかな暮らしを創造していくため、「ひょうご花緑創造プラン」を改定します。

なお、今回のプランの改定に併せて、「兵庫県広域緑地計画」の要素も統合し、策定することとします。

<花と緑とは>

規模の大小や民有・公有を問わず、樹木や草花などの植物などによって構成される森林、里山、草地、公園、水辺、農地、民間の庭園、工場・企業等の緑地、花壇などの環境(花と緑のオープンスペース)を幅広く花と緑と捉え、プランの対象とします。

2 計画年度

平成28年度（2016年）～平成37年度（2025年）〔10年間〕

花と緑という育成に時間をかけて取り組む必要がある性質を考慮し、プランの計画年度は平成28年度から平成37年度までの10年間とします。

また、中間年となる概ね5年後（平成32年度）の社会情勢や花と緑をとりまく状況の変化等を考慮し、必要に応じて見直すこととします。

3 目的・位置付け

複数の市町に跨がる広域緑地から県民の生活に身近な緑地に至るまで、多様な緑地を維持・確保するとともに、花緑に関する活動への県民参画の機会をを広げ、県民のゆたかな暮らしの実現に寄与するため、県民・団体・事業者・行政との参画と協働による花と緑の取り組みの方向性を示すことを目的とします。

また、都市域における緑地の保全と創造に関しては、一つの市町の範囲を越えた広域的な視点で、都市公園などの整備、都市緑地法をはじめとした法や条例等による緑地の保全などのあり方などを「兵庫県広域緑地計画」として定めていましたが、本プランと都市の緑地の保全等に関しては、対象地域（都市計画区域）や目標（市街地の緑地率3割以上）など重なる要素があることなどから、今回のプラン改定に併せて、「兵庫県広域緑地計画」の要素を統合し、策定します。

そのことにより、本プランは、「21世紀兵庫長期ビジョン」やそのまちづくり分野の方針である「まちづくり基本方針」に示されている将来像の実現に向け、県下の花と緑の取り組みの方向性を示す個別分野の計画となります。また、広域的観点における緑地に関する広域緑地計画としての性格も有するものです。

兵庫県広域緑地計画（平成8年3月策定）の概要

- ※ 広域緑地…一つの市町の範囲を越える広域的な視点でとらえる県立都市公園をはじめとした緑地
- 目 的：都市計画区域（線引き都市計画区域）の緑地の保全と創造及び緑化の推進
- 計画期間：平成8～21世紀初頭
- 内 容：都市公園などの緑地整備、都市緑地法や条例等による緑地の保全に関する施策や目標を示した計画
- 目 標：一人当たり都市公園面積20㎡以上、市街地の緑地率30%以上

4 計画の評価・見直し

このプランの計画期間は10年間ですが、概ね中間年となる5年での社会情勢や花と緑をとりまく状況の変化等を考慮し、必要に応じて見直すこととします。見直しに際しては、学識者による審議や県民意見の反映による計画内容全体を評価します。

それに合わせて、花と緑にふれあう機会（花緑にかこまれる、花緑をたのしめる、花緑にかかわれる）の視点を踏まえ、花と緑に満足する人の割合など適宜県民モニターアンケートのアンケート調査等で把握します。

第1章 花と緑の現状と課題

1-1 これまでの花緑に関する取り組み

県内における花緑活動は、都市地域から農山村地域、森林地域などの各地域において、地域住民、緑化活動団体、民間団体、民間事業者など多様な主体により進められており、その目的や内容も多様です。花緑活動を支えるため、兵庫県ではこれまで活動資材の提供やボランティアスタッフの養成、講師派遣等の技術的支援、活動団体の表彰など参画と協働による取り組みを進めてきました。

また、県をはじめ各市町などでも、都市公園などの緑地整備や、条例等による緑地の保全や緑化を実施してきました。

① 県民緑税を活用した緑の創出と保全

県民緑税が導入された平成18年度以降、平成26年度までの9年間で、県民まちなみ緑化事業では計約607,000本の植樹と約48haの芝生化が行われ、県民との参画と協働の花緑の取り組みが定着してきました。

また、同じく緑税を活用した災害に強い森づくりでは、第2期(平成23年度～27年度)から住民参画型森林整備事業を追加し、地域住民やボランティア等の参画による自発的な森林整備活動を37箇所・96haで実施してきました。

表 県民まちなみ緑化事業実績

整備内容	第1期 (H18～22年度)	第2期					合計	
		H23	H24	H25	H26	計		
植樹 本数 (本)	高木	21,100	1,300	2,100	5,100	5,900	14,400	35,500
	低木	341,000	24,200	46,800	90,500	68,800	230,300	571,300
	計	362,100	25,400	48,900	95,600	74,800	244,700	606,800
芝生化面積 (㎡)	229,100	48,600	66,600	62,800	76,300	254,200	483,200	
緑化面積 (ha)	61.0	7.3	11.1	15.9	17.0	51.4	112.4	

四捨五入の関係で合計が一致しない箇所があります。

表 災害に強い森づくり事業実績

(単位：ha)

整備名	第1期 (H18～22年度)	第2期					合計
		H23	H24	H25	H26	計	
緊急防災林整備	12,450	1,492	1,164	1,197	1,291	5,144	17,594
針葉樹林と広葉樹林の混交林整備	994	176	101	229	222	728	1,722
里山防災林整備	2,217	365	406	405	323	1,499	3,716
野生動物育成林整備	1,092	188	500	460	424	1,572	2,664
住民参画型森林整備	(第2期から)	17	31	24	24	96	96
計	16,753	2,238	2,202	2,315	2,284	9,039	25,792

■県民緑税を活用した取り組み

兵庫県では、豊かな「緑」を次の世代に引き継いでいくため、県民共通の財産である「緑」の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、平成18年度から「県民緑税」（県民税均等割の超過課税）を導入し、災害に強い森づくりや、環境改善や防災性の向上を目的とした都市の緑化を進めています（平成28年度から第3期）。

災害に強い森づくり

県民緑税を活用し、森林を保全・再生する事業として、森林の防災面での機能を高める災害に強い森づくりに取り組み、県土の保全や安全・安心な生活環境の創出を図ります。

【第3期の方針】

①災害緩衝林等の整備、②間伐木を利用した土留工の設置、③高齢人工林の広葉樹林化、④人家裏山の危険木伐採、⑤人と野生動物の棲み分けを図るバッファゾーンの設定、⑥地域住民等が自発的に行う森林整備活動への支援などを継続して進めるほか、新たに⑦都市山防災林整備に取り組みます。



緊急防災林整備
（間伐木を利用した土留工の設置）



里山防災林整備
（人家裏山の危険木伐採）



住民参画型森林整備
（地域住民等による整備）

県民まちなみ緑化事業

県民緑税を活用し、都市の緑の保全・再生のための事業として、住民団体などにより実施される植樹や芝生化、建築物の屋上・壁面緑化などの緑化活動に対して支援する県民まちなみ緑化事業に取り組み、都市における環境の改善や防災性の向上を図ります。

【第3期の方針】

これまでの支援内容を継続・拡充し、①県民参画の緑化活動の継続的推進、②緑の少ない人口集中地区における緑化を優先的に推進、③校庭の芝生化の推進に取り組むとともに、新たに④大規模な都心緑化の推進に取り組みます。



校庭の芝生化



建築物の屋上緑化



住民団体による植樹

② 花と緑あふれる美しい県土づくりの推進

年間約700団体へ一年草と多年草類をセットにした花苗、苗木、肥料等は無償で提供し、持続型花壇への転換と団体活動の継続を支援している緑化資材の提供事業、地域における花緑活動のリーダー（ボランティア）として実践活動や人材育成に取り組む方を「花緑いっぱい運動推進員」（約200名）に委嘱する花緑いっぱい運動推進員設置事業や民間と公的機関の接点に立って、住民団体等に専門的な指導・助言を行う「緑のパトロール隊」の設置など、花と緑あふれる“美しい県土づくり”を県民の参画と協働で進めるため、緑化基金事業に取り組んできました。

表 緑化資材の提供事業実績

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	合計
団体数	992	787	702	568	679	677	721	767	5,893
箇所数	1,060	842	751	568	679	677	766	783	6,126

③ 条例に基づく建築物及びその敷地の緑化・緑豊かな地域環境の形成

ゆとりと潤いある美しい環境の創造やヒートアイランド現象の緩和などを目的とし、環境の保全と創造に関する条例（環境条例）により、市街化区域内で一定規模以上の建築物を新築等する際、建築物及びその敷地の緑化を義務づけ、平成19年度から平成26年度までで約21haの建築物の緑化と約274haの建築物の敷地の緑化により都市部における緑化を推進してきました。

また、線引き都市計画区域を除く地域において、自然と調和した地域環境の形成を図るため、緑豊かな地域環境の形成に関する条例（緑条例）に基づき、適正な土地利用、森林及び緑地の保全と緑化の推進、優れた景観形成の視点で、開発行為等の誘導を図ってきました。

④ 花と緑のまちづくりに関する調査研究・普及啓発・活動支援

（財）兵庫県園芸・公園協会に設置した「花と緑のまちづくりセンター」では、県民の実践活動に役立つ調査研究を行うとともに、園芸・造園の専門家が公園フィールドで実施する研修会や園芸教室などの普及啓発、さらには県民まちなみ緑化事業や緑化基金事業の実施支援を行い、花と緑のまちづくり実践活動を推進してきました。

⑤ 花緑団体活動の顕彰

県民の参画と協働による“人間サイズのまちづくり”を推進するため、平成11年度に創設された「人間サイズのまちづくり賞」では、まちづくり活動部門として、花と緑のまちづくりや環境と共生するまちづくりに優れた功績のあった団体等を顕彰してきました。

⑥ 都市公園等による緑とオープンスペースの創造と活用

都市公園の整備推進により、国営公園や市町立都市公園も含めた県下の都市公園面積は、全国で2番目の規模となる約6,680haに達し、都市計画区域内人口一人当たり都市公園面積は12.4㎡/人（平成26年3月末時点）に至っており、全国平均（10㎡/人）を上回る水準となっています。また、都市公園以外にも、港湾緑地や児童遊園、CSR施設などの野外活動施設、自然公園などの緑地も多く、県民の多様な利用や活動の場となっています。

⑦ 都市緑地法をはじめとした法や条例等による緑地の保全

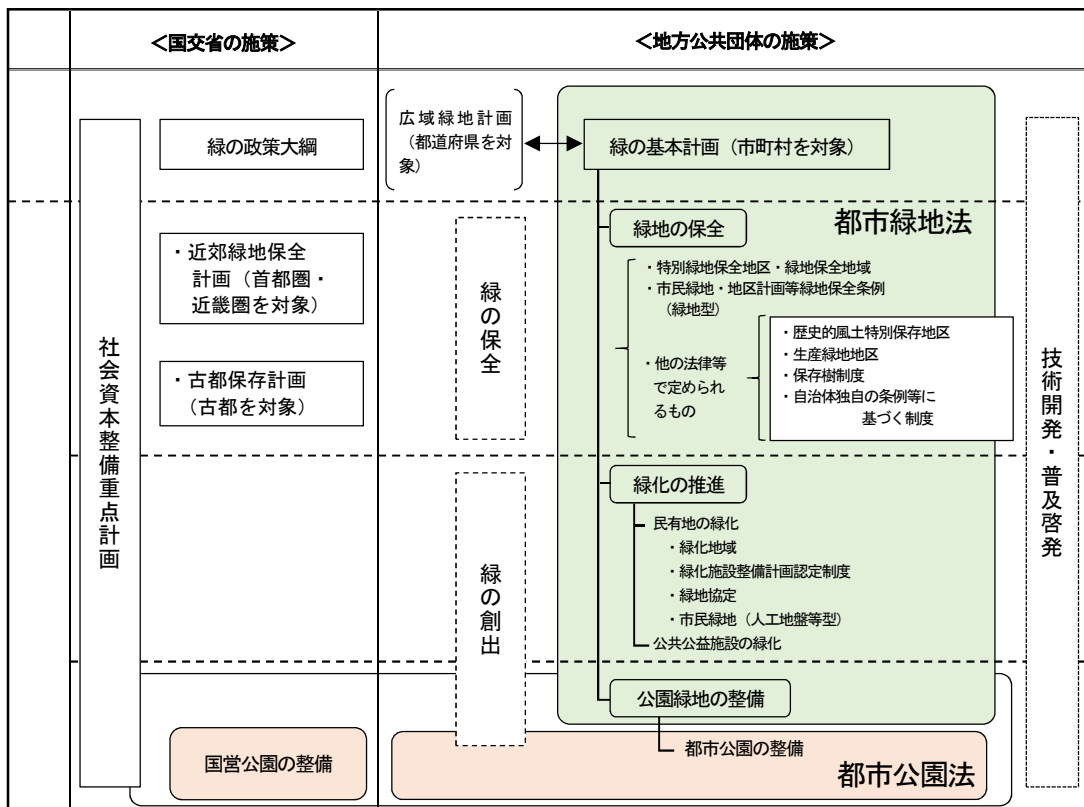
都市域では、都市緑地法、条例等の制度を活用した緑地の保全に努めてきており、神戸、阪神間地域では、六甲山麓部など市街地を取り巻く緑地を特別緑地保全地区として指定するなどして、良好な都市環境や景観形成、土砂災害防止など防災力の向上を推進してきました。

■緑の法制度

都市における緑の法制度は、大きく都市緑地法と都市公園法によります。

都市緑地法は、緑地の保全と緑化の推進をすることにより良好な都市環境の形成を図り、健康で文化的な都市生活の確保に寄与することを目的としています。同法では、市町が緑地の保全や緑化の推進に関して、目標、施策、推進の方針などを定める「緑の基本計画」を位置づけています。

また都市公園法は、都市公園の設置及び管理に関する基準等を定めて、都市公園の健全な発達を図り、公共の福祉の増進に資することを目的としています。



国土交通省ホームページ 緑地保全・緑化 制度の概要 施策の体系
公園緑地マニュアル 公園緑地施策体系図 (一般社団法人 日本公園緑地協会)

1-2 花と緑の現状と課題

今日における社会情勢や県民の意識など、花と緑をとりまく状況と花と緑に期待される役割(効果)及び花と緑に関する課題については、以下のとおりです。

花と緑をとりまく状況

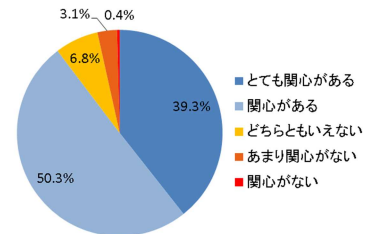
○参画と協働による

花緑の取り組みの広がり

- ・住民参画型森林整備や住民団体等による緑化活動をはじめとした参画と協働による取り組みが広がり、県民意識が高まっています。

○花緑への関心の高さ

- ・身近な緑(樹木や草花)に対して「とても関心がある」「関心がある」と回答した人は89.6%と非常に高くなっています。

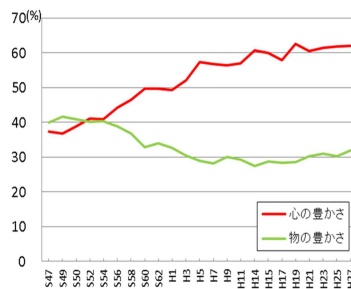


(資料:「県民モニターアンケート調査」結果(平成26年6月実施))

○「ゆたかさ」のとらえ方

(量より質へ、体験・活動志向)

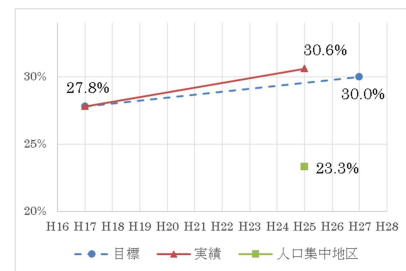
- ・社会が成熟化した現在では価値観は多様化しており、経済面だけではなく生きがいの充実や環境との共生など生活の質を向上させることが「ゆたかさ」の一つとして捉えられ、物の豊かさよりも心の豊かさを重視する人の割合が高くなっています。



■心の豊かさとの豊かさのどちらを重視するか
(資料:内閣府「国民生活に関する世論調査」)

○現行プランの評価

- ・都市地域の緑地割合の30%以上確保という目標は達成しながらも、人口集中地区では30%以下の市町が存在するなど地域間の偏在がみられます。



■都市地域の緑地割合の推移
(資料:兵庫県都市政策課、平成25年度)

■参画と協働による花緑の取り組み事例①

交流広場の芝生化の取り組み(高砂市)

高砂市荒井地域では、自治会や婦人会、老人クラブ、幼稚園等が一体となり、地域が集う交流広場「よってこ村」約1,000㎡の芝生化を実施しました。芝生面には、広場のマスコット「よってこさん」が施肥によりデザイン化されています。

芝生化された広場を利用し、祭りやなごみ市、運動会や野球教室などが催され、地域の世代間交流に寄与しています。

【効果等】

- 自治会、婦人会、老人クラブ、幼稚園等、地域の一体的な参画
- 芝生化広場を活用した世代間交流の拡大



住民等による植栽活動



芝生面のデザイン

花と緑をとりまく状況

○人口減少・少子高齢化社会の本格到来

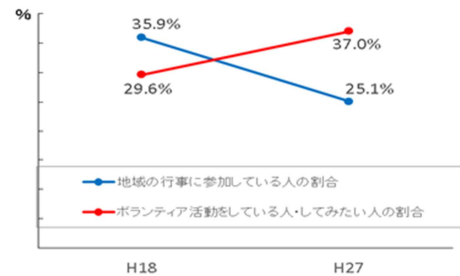
- ・担い手の減少による花緑活動の活力の低下が懸念され、その傾向は特に農山村地域・森林地域において顕著となると考えられます。

○地域コミュニティの衰退

- ・地縁型の地域コミュニティは、人口減少や少子高齢化による担い手の減少や中心市街地の衰退等様々な要因により、地域住民の参加頻度が減少し、衰退しています。

○人と人とのかかわりの希薄とボランティア活動への関心

- ・地域との付き合いが薄くなる一方、ボランティア活動への関心は高まっており、ギャップが生じています。



■地域行事への参加割合とボランティア活動への参加割合の変化
(資料：「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査)

○深刻化する地球温暖化・環境問題

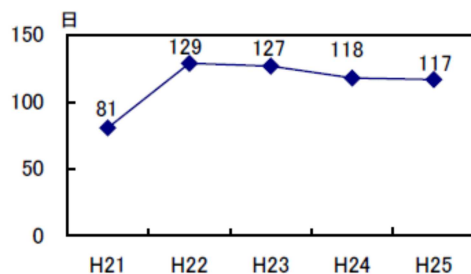
- ・地球温暖化防止や都市地域における熱環境改善やヒートアイランド対策という視点に加え、人々の生活の場としての環境改善という視点が着目されています。

○公園・緑地の整備状況

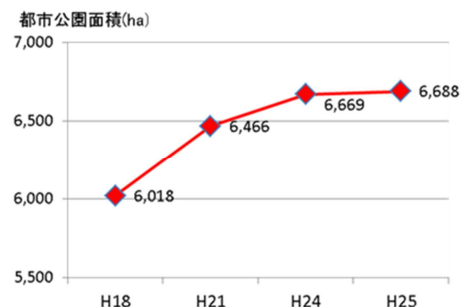
- ・都市公園のストックは増大しましたが、用地確保や財政的な問題から新規の公園・緑地の整備は難しい状況にあります。

○空き家、空き地、耕作放棄地など空き空間の増加

- ・空き空間の増加は、景観面、防犯面など様々な問題につながることを懸念されています。



■県内主要都市の真夏日及び熱帯夜日数（述べ日数）
(資料：兵庫県環境白書 平成26年度版)



■兵庫県内における都市公園の整備に関する推移
(資料：兵庫県公園緑地課)

○生物多様性の保全

- ・参画と協働による生物多様性保全活動の広がりや、里山を自然とのふれあいの場としての活用など、生物多様性保全に取り組むことが、人々の暮らしと身近なこととして捉えられるようになっていきました。

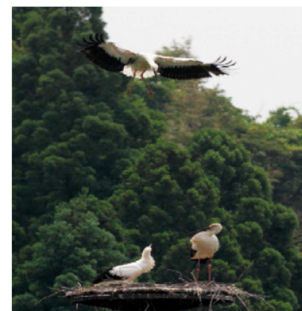


■コウノトリの野生復帰に向けた活動

[コウノトリの放鳥]

[豊岡市内の人工巣塔]

(資料：生物多様性ひょうご戦略(改定版)平成26年2月)



花と緑に期待される効果

花と緑に関する取り組みの課題

課題への対応

○コミュニティ形成効果

子育て世代や異なる世代間による交流機会の創出、人と人・地域を結び付けるコミュニティ形成への寄与

①地域のコミュニティ形成・再生

- ・公園等や花緑活動を行う場所が、地域交流の拠点となり、地域コミュニティ形成・再生に寄与することが求められています。
- ・花緑活動が、ボランティアへの参加意欲の高い人々にとって活動のきっかけとなり、そこから様々な地域活動への展開が期待されます。

→基本方針1へ

→推進施策1へ

○環境保全効果

ヒートアイランド現象の緩和、大気浄化、地球温暖化防止、CO₂吸収

②環境保全への対応の継続・拡充

- ・人々が快適に過ごせる都市環境づくりに花緑を有効に活用することが求められています。
- ・きれいな空気や水、安らぎやうるおいを与え人々の暮らしの質を高めるものとして、地域緑地による持続性のある緑地の確保の取り組みを今後も継続・拡充して推進していくことが求められています。
- ・都市地域等の低・未利用地を利用した市民農園等への活用や、公園等の既存の公共施設のストックの活用により、地域の生活環境を向上させることが期待されています。

→基本方針2へ

→推進施策2へ

○環境保全効果

生物の生育地・生息地、人と自然がふれあう場としての生物多様性の確保

③生物多様性保全への対応の継続・拡充

- ・生物の生息地として、また、自然とのふれあいの場として、森林・里山の整備や自然再生の取り組み、生物多様性の保全活動を今後も継続・拡充して推進していくことが求められています。

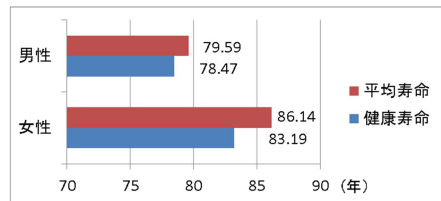
→基本方針3へ

→推進施策3へ

花と緑をとりまく状況

○平均寿命と健康寿命

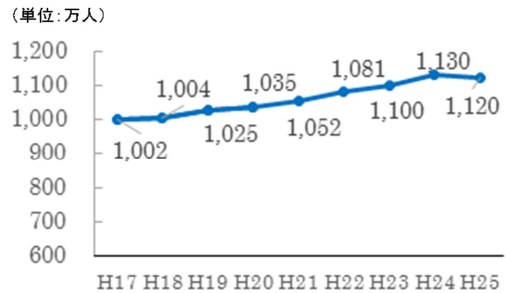
- 平均寿命が伸びる一方で、平均寿命と健康寿命との差（日常生活に制限のある「不健康な期間」）が拡大することにより、個人の生活の質の低下が懸念されています。



■兵庫県における「平均寿命」と「健康寿命」
(資料：兵庫県健康づくり推進実施計画、平成25年4月)

○都市と農山村との連携

- 農山村地域の集落機能の回復と都市住民ニーズに対応するため、都市と農山村の共生・対流が積極的に進められています。
- 食の安全等への関心の高まりなどを背景に、都市住民にとっての農業体験・学習や交流の場となるなど、多様な機能を持つ都市農地の保全と持続的な発展のための取り組みが進められています。



※楽農生活交流人口：県内の都市農村交流施設（農林漁業体験施設、農家レストラン、総合交流施設、農業公園）、農家民宿、市民農園の利用者数

○良好な景観の形成

- 良好な景観の形成による地域の魅力や居住環境の向上が進められています。

○大規模都心緑化による都市のにぎわいづくり

- エリアマネジメント等の手法を用いた大規模緑化によるまちのにぎわいづくりが進められています。

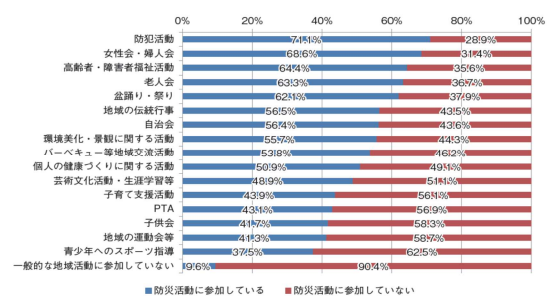
■楽農生活交流人口の推移
(資料：ひょうごみどり白書 2014)

○地域創生による人口対策、地域の元気づくり

- 地域創生戦略の中で、地域の元気づくりに向けた取り組みが求められています。

○自助・共助による地域防災力の必要性

- 花緑活動等地域活動の活性化により、防災活動が活発化し地域防災力の強化に繋がることが示されていますが、それを担う地域コミュニティの衰退に伴う自助・共助による地域防災力低下が懸念されています。



■一般的な地域活動（地縁活動）と防災活動との関係
(資料：内閣府(2014)「地域コミュニティにおける共助による防災活動に関する意識調査」)

○防災・減災に資する都市での緑化の必要性

- 密集市街地等における延焼防止や帰宅支援スポット整備の推進など、大規模災害への備えに向けて、花と緑の果たす役割が求められています。

○災害に強い森づくりの必要性

- 平成26年8月豪雨災害では、森林の適正管理や防災対策の必要性が再認識されています。

○維持管理の苦勞と難しさ

- 日常管理の手間に対する人手不足への対応、維持管理費用や資材提供への支援が求められています。
- 維持管理手法に関するガイドや講習会の開催を望む意見も多くなっています（自ら学ぶ姿勢）。

花と緑に期待される効果

○健康増進効果

心身の健康増進、癒し効果、休息の場、充足感など、健康健全な暮らしへの寄与

○地域核の再生・地域活性化効果

地域固有の資源の保全・育成・活用、都市農山村等地域間交流の促進、地域核の再生や地域活性化への寄与

○景観形成効果

地域に根ざした景観の形成や花緑による美しい景観の形成による地域への愛着や誇りを育むことへの寄与

○防災効果

雨水貯留、水源のかん養機能による自然災害の抑制、都市型水害リスク低減、避難場所としての活用、延焼の遅延・遮断

○持続性の観点から、維持管理への対応の検討が必要



灌水不足による枯損



維持管理不足での枯損

花と緑に関する取り組みの課題

④-1 体験・活動による心身の維持・向上

・花緑に関する活動が、子育て環境の改善や県民のライフスタイルを変えることで、子どもから高齢者まで心身ともに健康的に暮らせることが求められています。

④-2 地域資源の活用、地域間交流

・地域に愛されてきた社叢の復活など、地域核の再生や芝生広場の整備による地域活性化が期待されています。

・地域景観を支える緑地の保全創出につながる花緑活動を地域住民が主体となって進めることで、地域資源を共有財産として大切に、自分の地域に誇りを持つことに繋がること期待されます。

⑤防災対策の継続、防災意識の醸成

・避難場所や防災公園等の整備による防災対策が求められています。

・空き家除去跡地を一時避難場所として活用するとともに、緑化を図り、花緑のある場所が防災活動の場となり、自助・共助による防災意識の醸成につながることを期待されています。

・局地的な集中豪雨への新たな森林の防災対策など、引き続き災害に強い森づくりの取り組みが求められています。

課題への対応

→基本方針4へ

→推進施策4へ

→基本方針5へ

→推進施策5へ

→維持管理の推進へ

第2章 理念

県まちなみ緑化事業をはじめとした参画と協働による緑化実績の蓄積や、県民意識の高まりなどから、県内各地で参画と協働による花緑の取り組みが広がり、コミュニティ形成や地域活性化に寄与した事例も増えてきたことから、地域づくりとしても、これらの取り組みを広げる参画と協働の取り組みを継承していくことが重要です。

また、「ゆたかさ」のとらえ方は量より質へ、体験や活動、心の豊かさを重視する傾向が高まっていることから、県民のみなさんの生活の質（ゆたかな暮らし）の向上をめざした取り組みが求められています。以上より、本プランの理念を以下のように設定します。

理念：花緑の『育み』、『恵み』による『ゆたかな暮らし』の実現

花と緑の多様な役割・効果を県民、団体、事業者、行政の間で共有し、共に取り組み（『育み』）、その成果・効果・実感（『恵み』）を受けて『ゆたかな暮らし』につなげます。

『育み』

県民、団体、事業者、行政が各々の役割を理解し、互いに支えあいながら取り組みを進めていくことで、花緑の様々な成果・効果を発揮するため、県民自らが主体となった取り組みと県民、団体、事業者、行政が連携して進める行政施策を、本プランでは『育み』としてとらえます。

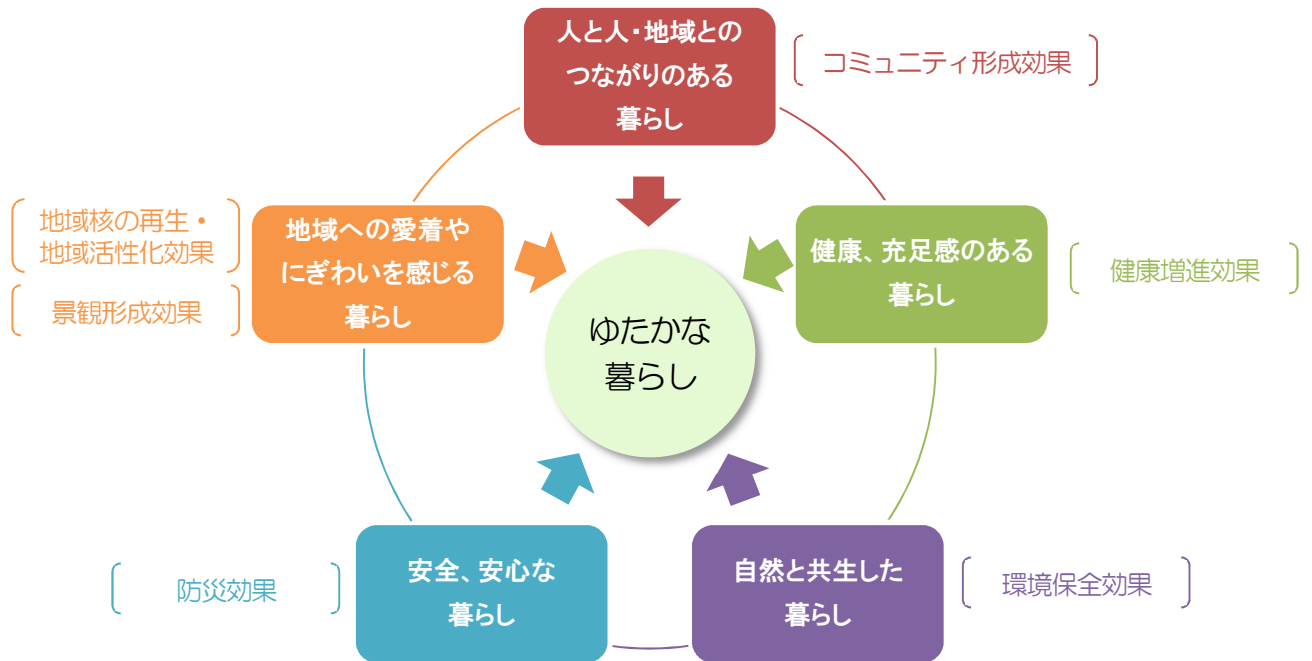
『恵み』

『育み』により得られる成果・効果は、「まちなかでの花や緑の増加」といった実績だけではなく、「まちがきれいになってうれしい」や「緑の中で思いっきり遊べて楽しい」といった、県民の実感として現れるものです。このような施策・取り組みによる実績や県民の実感を、本プランでは『恵み』としてとらえます。

『ゆたかな暮らし』

『恵み』の結果から感じられる以下のような暮らしを、本プランでは花と緑を活かした『ゆたかな暮らし』とします。

- 人と人・地域とのつながりのある暮らし
- 健康、充足感のある暮らし
- 自然と共生した暮らし
- 安全、安心な暮らし
- 地域への愛着やにぎわいを感じる暮らし



21 世紀兵庫長期ビジョンの将来像とゆたかな暮らし

21 世紀兵庫長期ビジョン 12の将来像	ゆたかな暮らし (ひょうご花緑創造プラン)
<ul style="list-style-type: none"> 将来像 1 : 人と人のつながりで自立と安心を育む 	理念…花緑の『育み』、 『ゆたかな暮らし』による 『恵み』の実現 <ul style="list-style-type: none"> 人と人・地域とのつながりのある暮らし
<ul style="list-style-type: none"> 将来像 2 : 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する 将来像 3 : 次代を支え挑戦する人を創る 	<ul style="list-style-type: none"> 健康、充足感のある暮らし
<ul style="list-style-type: none"> 将来像 4 : 未来を拓く産業の力を高める 将来像 5 : 地域と共に持続する産業を育む 将来像 6 : 生きがいにあふれたしごとを創る 	<ul style="list-style-type: none"> 自然と共生した暮らし
<ul style="list-style-type: none"> 将来像 7 : 人と自然が共生する地域を創る 将来像 8 : 低炭素で資源を生かす先進地を創る 	<ul style="list-style-type: none"> 安全、安心な暮らし
<ul style="list-style-type: none"> 将来像 9 : 災害に強い安全安心な基盤を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 地域への愛着やにぎわいを感じる暮らし
<ul style="list-style-type: none"> 将来像 10 : 地域の交流・持続を支える基盤を整える 将来像 11 : 個性を生かした地域の自立と地域再興で元気を生み出す 	
<ul style="list-style-type: none"> 将来像 12 : 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ 	

第3章 目標

ゆたかな暮らしの実現を実感する目標として、緑の質を高める視点から、質的な基本目標を定めます。

また、都市地域、農山村地域等、森林地域ごとの県民の参画と協働による花と緑に関する取り組みの方向性を示すため、地域目標を定めます。

3-1 基本目標

ゆたかな暮らしの実感は、花と緑にふれあう機会（例えば、花緑にかこまれる、花緑をたのしめる、花緑にかかわれるなど）が増えることによりいっそう発揮されます。花緑にふれあう機会が増えることは、花緑に満足する人が増えることとなります。

こうしたことから、県全体の基本目標として、身近な花と緑に満足する人の割合を増やすこととします。

○身近な花と緑に満足する人の割合を増やす

住まいや職場、学校など身近な緑（樹木や草花）の満足度 現状：約 65%（H26）
⇒ 中間目標： 67.5%（H32） ⇒ 目標： 70%（H37）

花緑にふれあう機会

かこまれる

身近にある、目に見える花緑が多いほど、花緑にふれる機会が増え、『恵み』を享受しやすくなるため、特に都市地域など比較的緑が少ない地域において、花緑の量や花緑へのアクセスのしやすさなど花緑に囲まれることが重要です。

たのしめる

まちの景観を向上させる花壇や運動ができる芝生広場、自然を観察できるピオトープなど身近な花緑が多様であり、また花緑の種類やデザイン性などより多様で質の高い花緑を楽しむことが重要です。

かかわれる (わかちあえる)

花緑をさわったり育てたり、維持管理等にかかわれる花緑が多いほど、花緑活動を通じて仲間とつながり、価値をわかちあえることでやりがいや生きがいを感じられるなど花緑にかかわれることが重要です。

市街化区域において県民が豊かさを実感できる永続的な緑地の割合とされる 30%以上を確保・維持します。

また、人口集中地区については、緑地割合 25%となるよう確保し、偏在を是正します。

- 市街化区域の緑地割合 3 割の維持（H37） 現状：30.6%（H25）
- 人口集中地区の緑地割合 25%の確保（H37） 現状：23.3%（H25）
中間目標：24.2%（H32）

3-2 地域目標

多様な地域の特性とポテンシャルを活かすという地域創生戦略の基本的な考え方等を踏まえ、ゆたかな暮らしの実現を実感するため、都市地域、農山村地域等、森林地域におけるひょうごの多様な緑地を活かした地域目標を設定します。

(1) 都市地域

ゆとりと潤いのある都市空間の維持・創造

限られた都市地域の花と緑のオープンスペースを、防災減災機能や生物多様性の保全、良好な生活環境や景観等を確保する空間として県民共通の貴重な財産に位置づけ、県民が豊かさを実感できる永続的な緑地として、維持・創出します。



市街地の花壇



郊外住宅地



地方部の中心市街地

(2) 農山村地域等

田園・里山空間等多自然環境の保全・活用

中山間地や都市近郊などにおける農地や里山群、ため池などをはじめとした田園空間を県民共通の重要な地域資源として位置づけ、田園空間の良好な環境の保全に努め、地域の活性化等に寄与するレクリエーション機能のより一層の活用を進めます。



農村風景



棚田の景観



農地に広がるため池群

(3) 森林地域

豊かな多自然環境にある森林の保全・活用

緑豊かな森林を県民共通の財産と位置づけ、県土にとって貴重な緑の保全に努めるとともに、社会全体で森林を支える仕組みのもと、生物多様性保全、CO₂ 吸収、土砂災害・洪水防止、水源のかん養、保健・レクリエーション、景観形成など森林が有する多面的機能の維持向上や活用を図ります。



氷ノ山・八チ高原



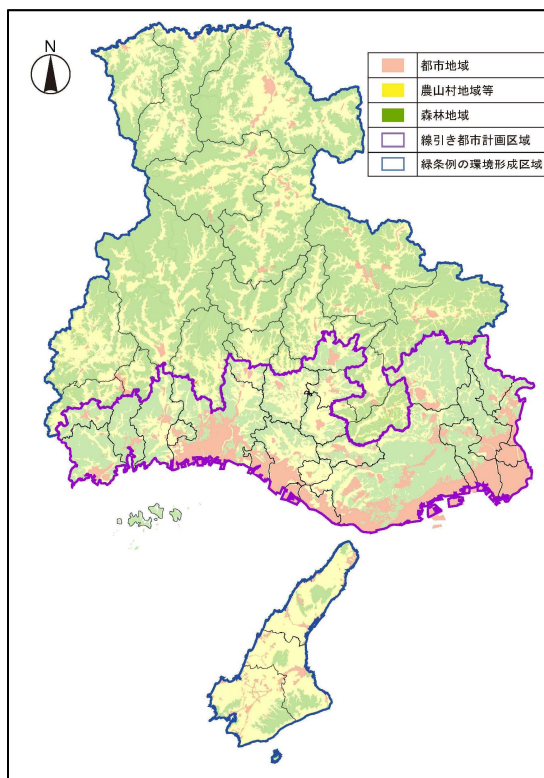
市街地から望む六甲山地



森林レクリエーションの提供

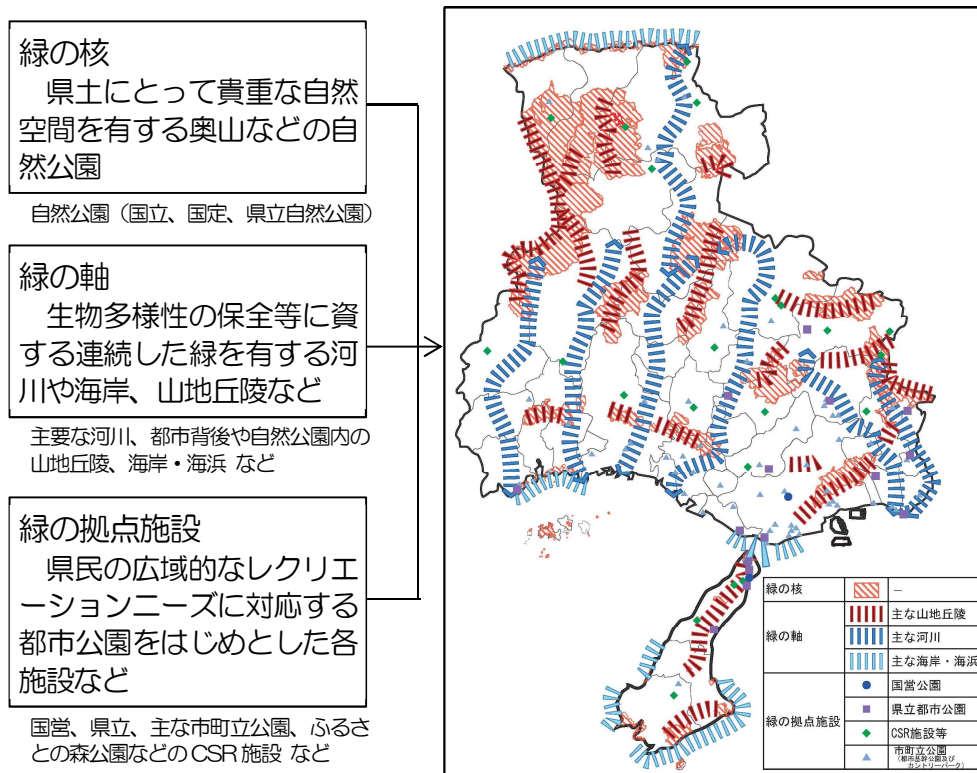
□各地の都市、農山村、森林等の地域分布

県土全域で、緑化活動等の緑豊かな地域環境の保全、創出、活用を進める都市、農山村、森林などの地域分布（緑条例、都市計画法等で地域特性に応じた花緑による地域環境の形成を推進する状況）。



□各地の花緑をつなぐ核や軸となる自然公園や山地丘陵、河川等の分布

県土の多様な魅力を育み、広域的な花緑ネットワークを形成する自然公園や山地丘陵、河川等の県土各地の花緑をつなぐ核や軸などの分布。

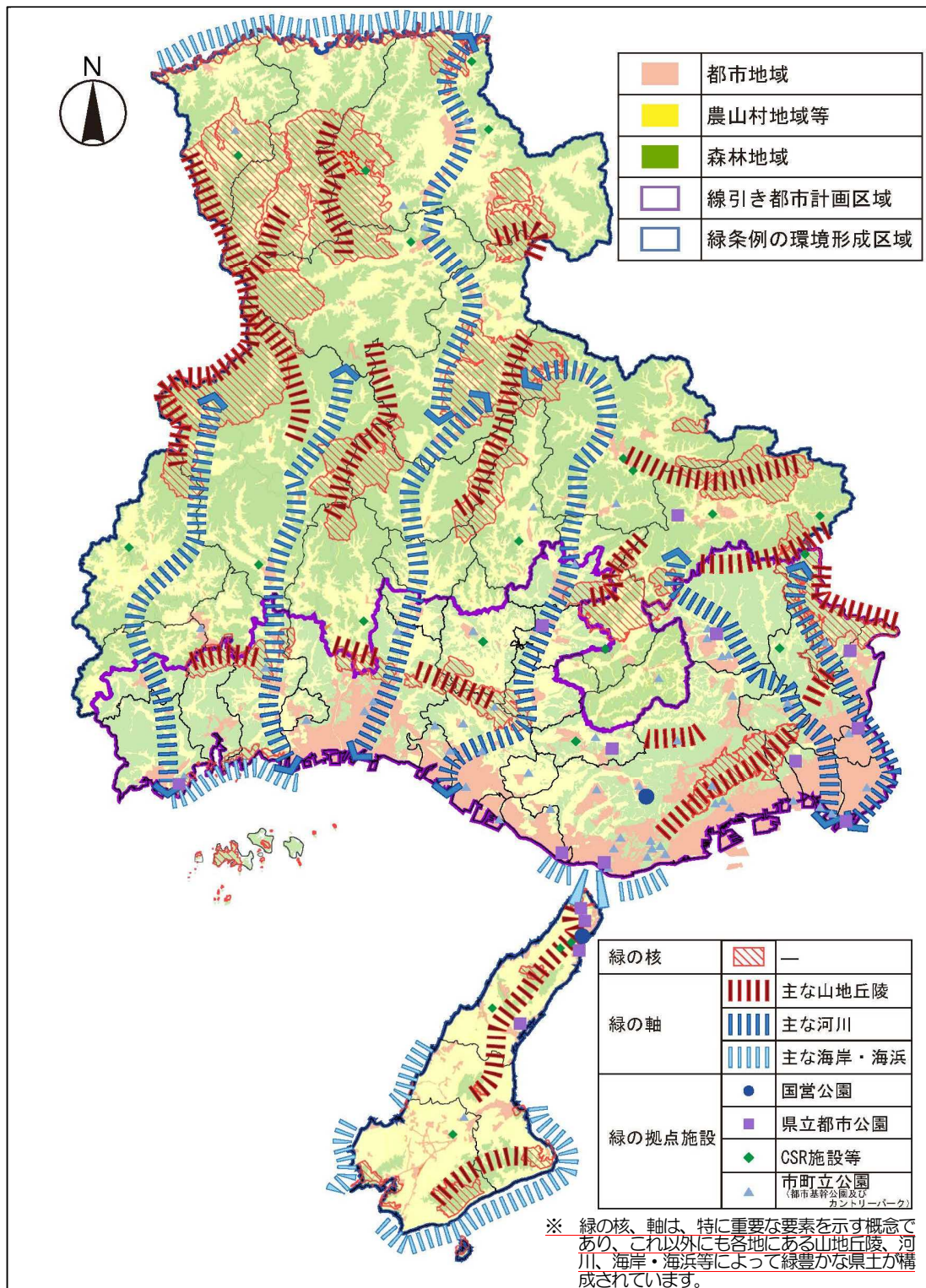


※ 緑の核、軸は、特に重要な要素を示す概念であり、これ以外にも各地にある山地丘陵、河川、海岸・海浜等によって緑豊かな県土が構成されています。

■花緑ネットワークによる理念の実現

都市、農山村、森林等の地域を有する多様な県土において、自然公園、河川、都市公園等花緑ネットワークを形成する緑の核や軸、拠点により各地域をつなぎ、将来にわたり県土の花緑の保全、創出、活用に取り組み、『ゆたかな暮らし』の実現を目指します。

なお、広域的な視点で捉える花緑は、県土にとって貴重な自然空間である自然公園の「緑の核」や、河川、海岸・海浜、山地丘陵等の「緑の軸」、都市公園等の「緑の拠点施設」があり、ネットワークを形成しています。これらのネットワークを守り、活かし、各地域を結ぶことは、動植物の多様な生物環境、広域防災ネットワーク、県民のレクリエーション活動の空間等の充実、形成につながっていきます。



第4章 基本方針

理念の実現と目標達成に向けて、地域の花や緑をとりまく状況やまちづくりの目標、花と緑に期待される役割(効果)に応じた、県民、団体、事業者、行政が一体となり、互いに協力し合いながら進める取り組みの方向として、以下5つの基本方針をかかげます。

基本方針1

「花と緑を活かして、人と人・地域とのつながりやコミュニティをつくります」

私たちは、公園・緑地を維持・確保するとともに、花と緑にかかわる活動を通じた交流によって、世代を超えた人と人、人と地域とのかかわりを持ち、互いに認め合うことで、豊かであたたかな人と人、人と地域とのつながりを実感できる暮らしの実現をめざします。

公園などでの花壇づくりがきっかけとなって、地域住民同士の交流が広がっています。

花緑による人と人・地域とのつながりある暮らしのイメージ



基本方針2

「花と緑を活かして、人にやさしい環境をつくります」

私たちは、広域や生活に身近な緑地の量と質の確保や、ヒートアイランド対策など都市環境の改善による人と自然の持続可能な関係の再構築など、地域特性に応じた花と緑の保全・再生・創造・活用によって、自然の恩恵を受ける人にやさしい暮らしの実現をめざします。

身近な緑地による都市環境の改善で、快適な環境の確保と環境保全意識の醸成につながっています。

花緑による人にやさしい暮らしのイメージ



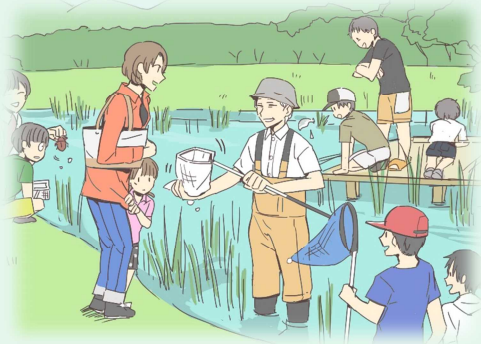
基本方針3

「花と緑を活かして、自然と共生した環境をつくります」

私たちは、緑の連続性の確保による生物多様性の保全など、地域特性に応じた花と緑の保全・再生・創造・活用によって、自然と共生した暮らしの実現をめざします。

都市近郊の自然地を活用し、自然体験の機会を増やすことで、生物多様性の保全や活動への意識の醸成につながっています。

花緑による自然と共生した暮らしのイメージ



基本方針4

「花と緑を活かして、すべての世代の健康や生きがい、
地域間の交流や地域への愛着、にぎわいをつくります」

私たちは、多様な世代による花と緑にかかわる活動や子育て環境を充実させることによって、心身の健康づくりやレクリエーションにつなげるとともに、誰もが学びの喜びを実感し、自分らしいライフスタイルの実現や地域社会での役割を得ることで、充足感や幸福感を感じられる社会をめざします。

地域固有の花や緑の保全・創出・活用によって、地域景観の向上や地域活性化の拠点づくりを進めることで、愛着やにぎわいを感じられる地域づくりをめざします。

花緑団体同士の交流やオープンガーデンなど花緑活動を通じた地域間の交流によって、連携を深め、互いに支え合い、魅力を高め合うことで、活力ある地域づくりをめざします。

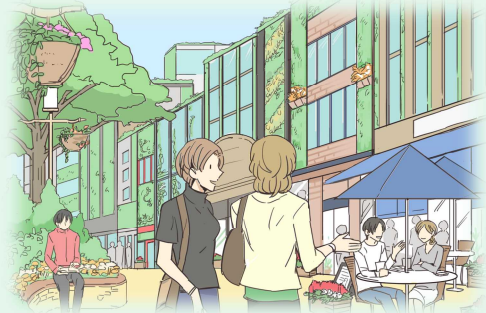
花緑による健康、充足感のある
暮らしのイメージ



校庭の芝生化や花壇づくりによって、子どもたちや地域住民の体を動かす機会や、やりがいのある活動への機会が増えています。

花緑による地域の愛着やにぎわい・交流を感じる暮らしのイメージ

商店街では、花緑のある気持ちのよい空間づくりが自主的に進められ、そのおかげで来訪者が増え、地域に活気が出てきています。



基本方針5

「花と緑を活かして、安全・安心に暮らせる地域をつくります」

私たちは、安全安心を支える災害に強い森づくりや公園・オープンスペースの整備、生活環境の保全、緑地や森林の保全によって、防災減災機能を確保するとともに、森林整備への住民参画や花と緑にかかわる活動が育む自助・共助による地域防災力が向上することで、災害や危機に強い安全安心な地域づくりをめざします。

花緑による安全・安心な暮らしのイメージ



普段から地域住民による花壇づくりが行われていることで、避難訓練などの域防災力の向上につながる活動が展開されています。
また、いつも知っている誰かがいるため、安心して遊んだりすることができます。